

2 研究の実際

(4) 検証授業の分析と変容

ア 学級全体における表現の工夫についての分析

検証授業の第2時において、ワークシートに作品の「工夫したこと」を記述させました。生徒の記述の中から、「反復」「変化」に関する記述を抜粋しました（表1）。「2人のやりとりを表すためにたくさん反復した」「会話にみせるように反復をしてみた」等、絵から想像した場面に合わせて、思いや意図をもって「反復」「変化」を生かして表現したことが分かります。

ワークシートの記述を内容別に分類すると、「反復」に関する記述が17名、「変化」5名、「テクスチュア」12名、他にも、「旋律(4名)」「強弱(2名)」「音色(1名)」「リズム(1名)」「速度(1名)」の記述が見られ、工夫したことを音楽と関連付けながら書くことができていました。

図1は、「反復、変化などの構成をどのように工夫するかについての思いや意図をワークシートに書いている」人数と割合を表しています。「どのように工夫するかについての思いや意図を音楽に関する言葉を使ってワークシートに明確に書いている(A)」が17名、「反復、変化などの構成をどのように工夫するかの思いや意図をワークシートに書いている(B)」が10名、合わせて90%の生徒が構成をどのように工夫するかの思いや意図を書くことができていました。

図2は、「表現の工夫として書いていること」と「実際の作品」との整合性を調べたグラフです。「反復、変化などの構成を工夫したことが作品に表れているとともに、それを正確に記録している(A)」が8名、「反復、変化などの構成を工夫したことが作品に表れている(B)」が15名、合わせて76%の生徒が、工夫したことを作品で表現することができていました。

これらのことから、生徒は「反復」「変化」等の構成原理を理解し、それらを生かして音楽表現することができたと言えます。

表1 「反復」「変化」に関わる表現の工夫の記述（抜粋）

何回も頼んでいる感じを出すために反復した。
2人のやりとりを表すためにたくさん反復をした。
最初動きを反復させて頼んでいる様子を表現した。リズムをなるべく変えないようにするために変化させた。
テーマを反復させた。高い音を多く使った。大蔵と天狗を交互にかけあいをしている。最後を合わせた。
大蔵は明るい感じにして天狗どんは暗い感じ。天狗どんは意志がかたいから2回反復して、やっと「OK！」してくれたから最後は2人であわせた。
会話にみせるように反復をしてみた。てんぐのパートが君が代っぽいところがあった。題名のとおり、会話が成り立つように交互に吹いている。大蔵がお願いしている所を高めめの音で表現した。
最初に大蔵が天狗どんにおねがいをしている様子が最後にはなかなかよくなっていくところを表現した。大蔵と天狗どんの最後はリズムが同じだけど音を変化させてなかよしだけど、話がかみ合わない感じにしました。
低い音を使って天狗の力強い感じを出した。最後は反復と変化をいれて協力している感じにした。
テーマを反復させたり、リズムは同じで音を変化させて天狗どんと大蔵の問答を表現させました。また、大蔵の元気な様子が出るように、たまに高い音を入れました。

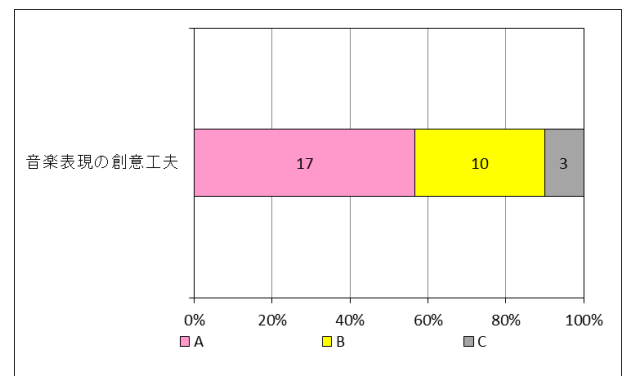


図1 「音楽表現の創意工夫」の割合

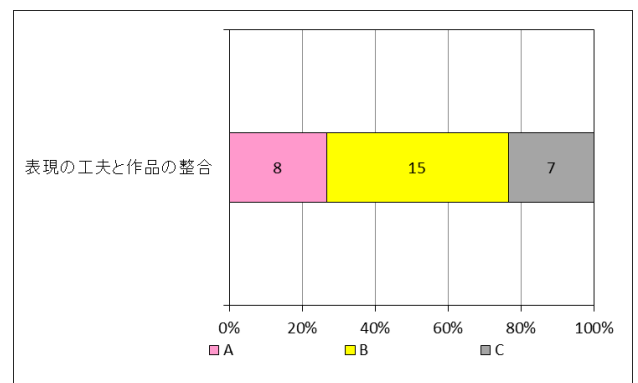
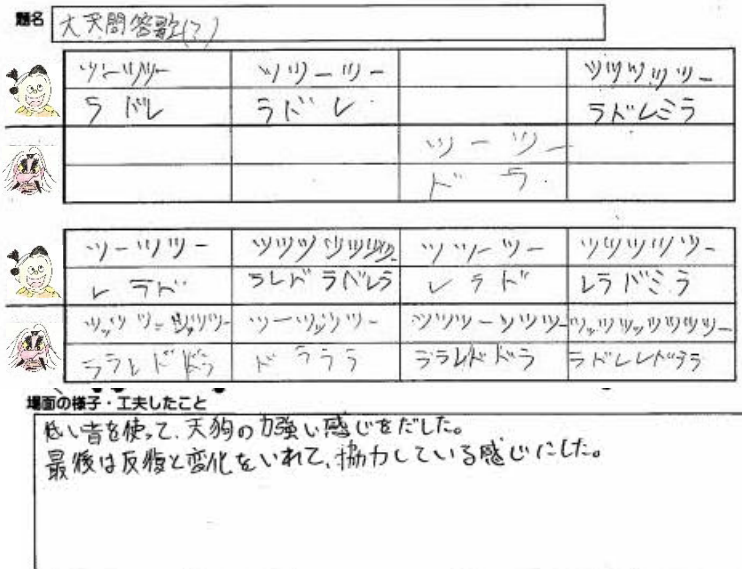
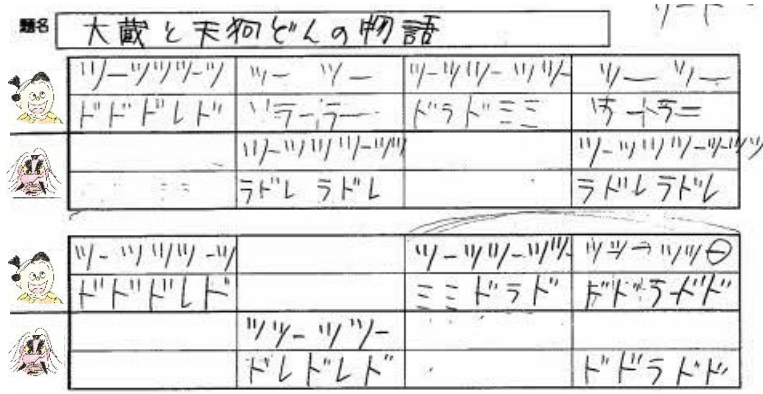


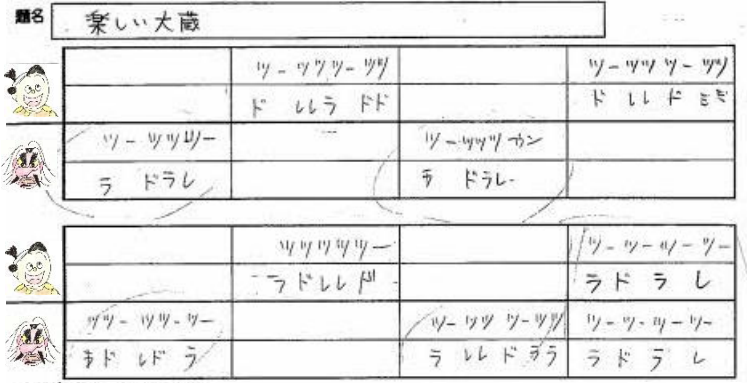
図2 「表現の工夫」と「作品」が整合している割合

イ 抽出生徒における表現の工夫についての分析（生徒A・生徒B・生徒C）

生徒A			
質問紙調査		事前	事後
	書くこと	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば好き
	話すこと	どちらかと言えば嫌い	どちらかと言えば好き
	つくること	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば好き
	正しく記述できた「音楽の要素を表す言葉」	速度、強弱	速度、強弱、反復、変化
授業のワークシート	実際の記述	 題名 天狗の奇蹟 場面の様子・工夫したこと 低い音を使って、天狗の力強い感じを出した。 最後は反復と変化をいれて、協力している感じにげた。	
	分析	「天狗の力強い感じを出すために、低い音を使った」と、イメージと音程を関わらせて表現を工夫したことが読み取れる記述が見られます。記述にはありませんが、天狗どんの動機は、大蔵よりも長い音符を用いています。力強い感じを出すために、音高だけでなくリズムも工夫している点が見られます。 言語活動の「話すこと」の意識が「どちらかといえば嫌い」→「どちらかと言えば好き」に変化しています。	

生徒B			
質問紙調査		事前	事後
	書くこと	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば好き
	話すこと	どちらかと言えば好き	好き
	つくること	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば好き
	正しく記述できた「音楽の要素を表す言葉」	速度、強弱	リズム、速度、強弱、反復、変化

授業のワークシート	実際の記述	題名 大蔵と天狗どんの物語  場面の様子・工夫したこと 大蔵は明るいかんじにして天狗どんは暗いかんじ 天狗どんは「か」かたいから、2回反復して、 やっと「ok!」してたか今最後は2人であわせた。
	分析	大蔵と天狗どんの動機を反復する理由を、「天狗どんは意志が固いから2回反復した」と記述し、大蔵が天狗どんを説得している様子を表現しています。最後は同じ旋律を重ね、天狗どんが承諾し、気持ちが通い合ったことを表現しています。 言語活動の「話すこと」の意識が「どちらかといえば好き」→「好き」に変化しています。

生徒C			
質問紙調査		事前	事後
	書くこと	好き	好き
	話すこと	どちらかといえば好き	好き
	つくること	どちらかといえば好き	好き
	正しく記述できた「音楽の要素を表す言葉」	速度、強弱	音色、速度、強弱、反復、変化
授業のワークシート	実際の記述	題名 楽しい大蔵  場面の様子・工夫したこと テーマを反復させたり、リズムは同じで音を変化させて、天狗どんと大蔵の両方を表現させました。 また、大蔵の元気な様子が出るように、たまに高い音を入れました。	

	分析	「動機（生徒はテーマと記述）を反復させたり、リズムは同じで音を変化させたりして、天狗どんと大蔵の問答を表現した」と、反復、変化の言葉の意味を理解して使っている記述が見られます。「大蔵の元気な様子を表現するために、たまに高い音を入れた」として、動機の音を変化させてミを用いて表現しています。事後調査で「音色」の記述も正確にできていました。作品の最後は、大蔵と天狗どんを同じ旋律で重ね、終わった感じを出すことができています。 言語活動の「話すこと」の意識が「どちらかといえば好き」→「好き」に変化しています。
--	----	--

ウ 音楽の構成原理及び〔共通事項〕の理解の変容

検証授業 2 時間を通して、〔共通事項〕の「反復」「変化」「対照」を扱いました。

図 3 は検証授業前後の、〔共通事項〕ア「音楽を形づくっている要素」の理解の変容を表したグラフです。

検証授業前は、「音色（3%）」「速度（47%）」「旋律（3%）」と「強弱（50%）」の 4 項目の記述しか見られませんでした。しかし、検証授業後は、「音色」は 3% から 10% に、「速度」は 47% から 57% に、「強弱」は 50% から 70% にいずれも増加しました。指導する〔共通事項〕には入れていませんでしたが、授業でのリズム練習等を通して、「リズム」について正しく認識できるようになった生徒もいました。

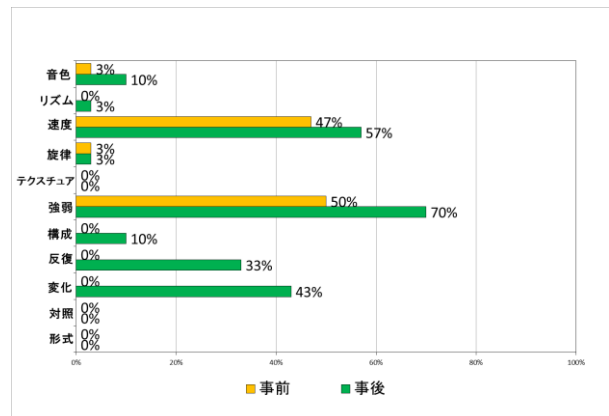


図 3 「音楽の言葉」の意味を正しく記述できている割合（完全正答のみの割合）

授業で扱った「構成」「反復」「変化」については、記述している人数が増加しました。「反復」「変化」に関しては、授業前は 0% でしたが、授業後は、完全正答に準正答を合わせると、正答率は 100% でした。創作活動を通して体験的に言葉の意味を理解することにつながったと言えます。

授業で主に扱ったものだけではなく、リズム練習やリズムカードを提示した際に扱った「リズム」、創作活動の中で扱った「音色」等についての理解も深まり、創作活動を通して、「音楽の言葉」の理解につながったことが分かります。

エ 言語活動に対する意識の変容

質問紙調査では、言語活動に対する意識について質問を 2 つ（質問 1、質問 2）、創作に対する意識について質問を 1 つ（質問 3）を行いました。

質問 1

音楽で、表現を工夫したことや思ったことを、書くことは好きですか。

①から④の中で、自分の気持ちに一番近いものを一つ選んで、○をつけてください。

①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い

質問 2

音楽で、表現を工夫したことや思ったことを、友達に話すことは好きですか。

①から④の中で自分の気持ちに一番近いものを一つ選んで、○をつけてください。

①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い

質問3

簡単な旋律をつくることは好きですか。

①から⑤の中で自分の気持ちに一番近いものを一つ選んで、○をつけてください。

①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い ⑤やったことがない

図4は、質問1「表現を工夫したことや思ったことを書くこと」の事前事後を比較したグラフです。「好き」「どちらかといえば好き」と回答した生徒が、事前調査では51%だったのに対し、事後調査では67%と増加しています。

図5は、質問2「表現を工夫したことや思ったことを友達に話すこと」の事前事後を比較したグラフです。「好き」「どちらかといえば好き」と回答した生徒が、事前調査では34%だったのに対し、事後調査では63%と増加しています。さらに、言語活動の感想を聞いてみたところ、「となりの人と協力してつくることができてよかった」「となりの人と話し合い、意見を言い合いながらつくって、やっているとどんどん楽しくなった」

「お互いに工夫しながらいい音が次々に浮かんできて、思ったより難しくなくてとても楽しかった」等の回答があり、話し合い活動による成果が見られました。今後、言語活動を継続して、たくさん取り入れていくことによって、より活発な言語活動へと発展し、言語活動によって音楽表現が深まると感じる生徒が増えていくのではないかと考えます。

図6は、質問3「音楽をつくって表現すること」の事前事後を比較したグラフです。「好き」「どちらかといえば好き」と回答した生徒が、事前調査では73%だったのに対し、事後調査では86%と増加しています。

創作活動を終えての感想を尋ねたところ、「初めて民謡音階で音楽をつくってみて、誰かと一緒に音楽をつくるのは、すばらしいと思った」「自分だけの曲を吹いて、日本らしい音楽について学ぶのは楽しかったです」「思ったより難しくなく、とても楽しかった」「初めて音楽をつくってとても良い音楽ができた」「イメージしながらつくるのはとても難しかった。しかし、音にしなげると、音楽のつくり方が分かり、また音楽をつくってみたいと思った」などの感想がありました。生徒にとって中学校で初めての創作活動に抵抗なく取り組み、言語活動や音楽科の特質に応じたコミュニケーションを通して、自分なりにイメージしたことを基に創作ができたことで、創作活動を「好き」「楽しい」と感じるようになったようです。

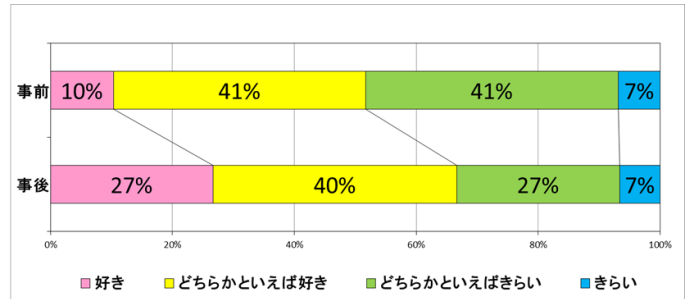


図4 表現を工夫したことや思ったことを書くことへの意識

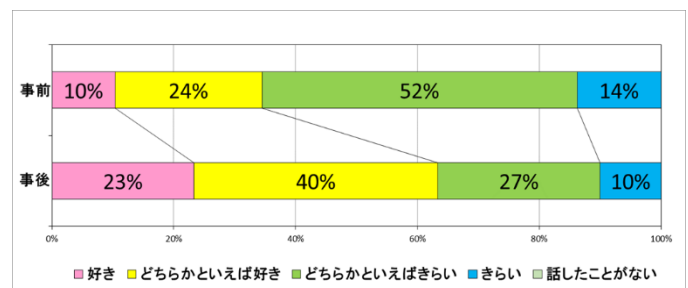


図5 表現を工夫したことや思ったことを話すことへの意識

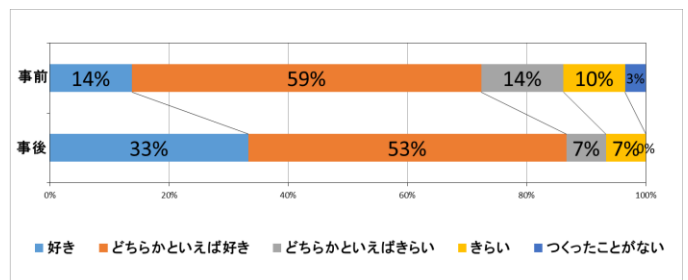


図6 創作活動への意識の変容